



【主な用途】

地下水、排水、鉱山湧水浄化など

【主成分】

人工ゼオライト・鉄化合物複合体

【使用方法】

所定の流速で汚染水とCAMZを接触させる。

【対象元素】

As、Se、Pb(特にAs吸着効果に優れている。)

【性状】

顆粒状(粒子径0.6~1.0mm)

【バッチ式模擬As汚染水吸着試験】

- ①各濃度に調整した模擬As(V)溶液にCAMZを所定量添加する。
- ②24時間振とうを行う。
- ③上澄み液を0.45メンブレンフィルターで濾過。
- ④得られた濾液のAs濃度を測定。
- ⑤濃度減少量から単位体積あたりのAs吸着容量を算出。

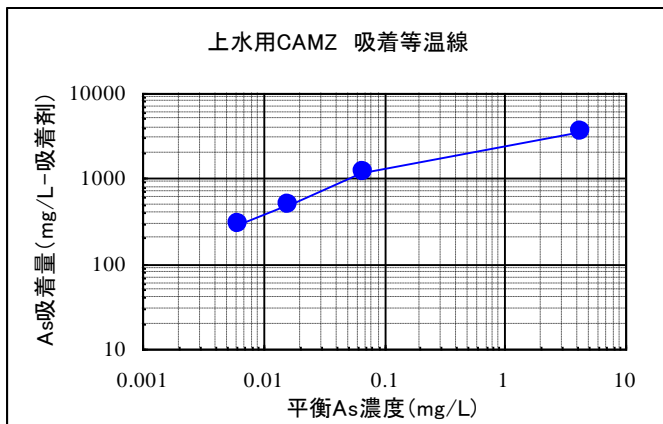


Table1, Fig.1 上水用CAMZ測定結果

原水As(V)濃度 [mg/L]	3	5	12	40
平衡As(V)濃度 [mg/L]	0.006	0.017	0.067	4.37
As(V)吸着容量 [mg-As/L-CAMZ]	299.3	498.4	1193.3	3563

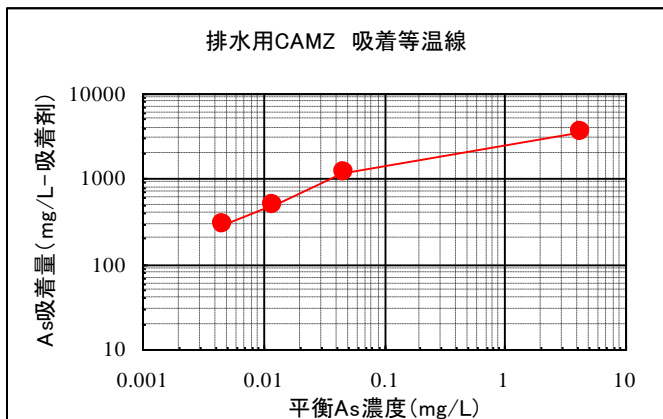


Table2, Fig.2 排水用CAMZ測定結果

原水As(V)濃度 [mg/L]	3	5	12	40
平衡As(V)濃度 [mg/L]	0.005	0.012	0.047	4.23
As(V)吸着容量 [mg-As/L-CAMZ]	300	498.8	1195.4	3577

【使用上のご注意】

- ・原水が強酸性もしくは強アルカリ性の場合は、中性付近に調整してからのご使用をお勧め致します。
- ・CAMZは主に5価のヒ素の吸着に効果を発揮します。3価のヒ素に対しては次亜塩素酸ナトリウム等の酸化剤を用いて5価に酸化してから通水することをお勧め致します。
- ・阻害物質としてリン酸系化合物が挙げられます。原水のリン酸の濃度がヒ素濃度に対して数十倍～数百倍程度の場合は、ヒ素の吸着に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
- ・処理対象とする原水のヒ素濃度は、上水用CAMZが0.1mg/L程度まで、排水用CAMZが0.5mg/L程度までとお考え下さい。それ以上の濃度のヒ素汚染水を処理する場合は、共沈・凝集沈殿法との併用をお勧め致します。
- ・逆洗は2週間に一回程度を目安として下さい。但し、損失水頭が高まり通水状態に影響が出る場合は、これ以上の頻度で逆洗を行って下さい。逆洗LV（一時間あたりの通水量/ろ過塔内断面積）は25（m/h）程度を目安とし、約20分間連続で行って下さい。
- ・通水処理の際はSV（一時間あたりの通水量/ろ材体積）=10以下、LV=6（m/h）以下を目安として下さい。
- ・ろ材をろ過塔に投入する際は、ろ材を均等にろ過塔内に配置するために、ろ過塔内に水を張った状態（ろ材が完全に浸る程度）で投入することをお勧め致します。
- ・ろ材投入後は逆洗水の濁りが消えるまで逆洗を行って下さい。（目安として約20分間程度行って下さい。）
- ・ろ過塔内の水を完全に抜いた場合、次回運転時にろ材間に空気を含んでいたり流路が制限されたりする場合があります。ろ過を一時停止する場合は、次回運転時に逆洗を行うか、ろ過塔内に水を張った状態（ろ材が完全に浸る程度）で停止することをお勧め致します。